

生ける水

聖霊による刷新のために

2024

夏季号

No.153

聖霊火リレー

全国コムニオ奉仕会 コーディネーター 小熊晴代

本号がお手元に届くのは、パリオリンピック開催中でしょうか。競技者のたとえを時々使う使徒パウロは古代オリンピック文化を肌で感じていたかもしれませんね。

今年の聖霊降臨のお祝いは、次頁からお伝えするように、『聖霊降臨二〇二四全国リレー賛美の集い』と名づけ、初の試みとして北から南まで各地の祈りの集いがオンラインでつながる賛美のリレーをしました。諸事情により前日の午後1時から4時、日没を待たずに賛美をフライングスタートさせました(陸上競技の反則は適用されず)。後日分かったことですが、同じ5月18日(土)の午後3時から、つまり日没前に、イタリアのヴェローナを司牧訪問中の教皇フランシスコが聖霊降臨の主日の前晚のミサを司式しておられました。これもある意味フライングスタート!?日本は現在夏時間のイタリアより7時間進んでいるので、私たちが先行者として聖霊降臨の喜びをヴェローナの教皇様とスタジアムに集まった3万2千人の会衆にバトンパスしたかのようでした。教皇様の説教は私たちが今回の賛美の集いで体験して学んだことと全く同じに思えたからです。原稿を用いずに語ら

れた教皇様の説教を私なりにまとめてみました。

「使徒パウロがあるキリスト教共同体を訪れた際、『信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか』と尋ねると、彼らは『いいえ、聖霊があるかどうか、聞いたこともありません』と答えました(使徒19:1-2)。彼らは聖霊が何であるのかを知りませんでした。今日のキリスト者共同体で私と同じように尋ねても、多くの人たちは答えられないでしょう。ある男の子は、『聖霊は、パラリティコ(麻痺患者)です!』と答えました。『パラクリト(弁護者)』を間違えて覚えていたのです。

聖霊は、私たちの生活の主役です。聖霊が私たちを助け、励まし、キリスト者として生きる歩みを前進させてくださいます。聖霊は私たちの内におられます。皆が洗礼を通して聖霊を受け、堅信でさらに豊かに受けます。自問してください、自分の中におられる聖霊を意識し耳を傾けているだろうか、と。

聖霊は私たちに勇気を与えてくださいます。聖霊が降った日、高間に閉じこもっていた使徒たちは、聖霊に心を変えられたの

☆ 目 次 ☆

巻頭文・聖霊火リレー (小熊晴代).....	1
「希望の巡礼者」のウォームアップ.....	2
聖霊様は、こんな方 (マイケル・ヴィン神父).....	4
フレンツ師による軽井沢黙想会 (ゲスマン和歌子).....	6
参加者の証しから.....	8
初台での一日黙想会 (小橋美智子).....	10
お知らせ.....	12

発行
聖霊による刷新

全国委員会

編集委員

中村友太郎
益田 薫

購読料(送料込み・年1600円)

購読申込み・振込み先

〒141-0021

東京都品川区上大崎2丁目

10-34-2-312

聖霊による刷新全国委員会

Email: ikerumizu.livingwater@gmail.com

郵便振替 00190-1-18878

口座名 聖霊による刷新全国委員会

で、出て行って福音を宣べ伝える勇気を頂きました。聖霊は私たちを変えてくださるのです。

最後に、聖霊降臨の日には、あらゆる国・言語・文化に属する人々がいました。聖霊は教会を築き、私たちに調和を与えます。聖霊は私たちを画一化せず、各自の違いを生かし、一つに結び付けて教会を築き、私たちの

「希望の巡礼者」のウォームアップ

『聖霊降臨二〇二四全国リレー賛美の集い』を開催しました。

全国コムニオ奉仕会「コーディネーター」 小熊晴代

去る5月18日、聖霊降臨の主日の前日の午後、オンラインで全国リレー賛美の集いを開催しました。土曜日の午後たっぷり3時間、参加してくれる人はいらぬかとちよつと心配でしたが、北海道の旭川と札幌、名古屋、鹿児島島の3つの賛美チームとコアグループだけで総勢50名、蓋を開けてみれば参加アカウントは最大58で、百名以上の参加者がありました。途中の入退室は想像したほど多くなく、画面オフの向こう側で何が起きている

間に調和をもたらされます。私たちは誰もが自分の魂に、家庭に、町に、社会に、職場に、調和を求めています。調和のないところに戦争や対立が生まれるのです。

聖霊が降った日、使徒たちと共におられたおとめマリヤ、私たちの母が私たちに聖霊を受け、私たちに教えることができますよ

うに。」

私たちの使命は、鍛錬を重ねた選手が記録を競う競技リレーよりも、大会開催前の聖火リレーに似ているかもしれませぬ。老若男女、一回二百メートルを一人でもグループでも、スピードを競うことなく、聖火を消さないように次の人に渡します。多くの人々の顔は喜びと誇りに

のかは分かりませんが、多くの参加者が3時間の賛美を完走したようです。事前に4会場合同でリハーサルをしたものの当日は音割れが発生、私の操作不備で酒井司教様のメッセージの音が最初聞こえなかった、マイケル神父様の講話の画面がパラパラ漫画のように動いて操作不能、といういろいろありましたが、人間の欠けた部分は聖霊が「金継ぎ」してくださり、賛美を満たす器として天の御父とイエス様の御前に献げてくださったと

信頼しています。◆最初に、全国コムニオ奉仕会の顧問を務めてくださっている酒井俊弘司教様（大阪高松大司教区補佐司教）がご多忙の合間を縫って5月15日に録画されたメッセージを聞きました。「皆さんがある意味で最も大切にしている日、聖霊降臨の主日が近づいてきました。聖霊が豊かに降る様子を、最初の聖霊降臨の日から、教会は常に見てきました。そして、今年の聖霊降臨の主日も、私たちが今どのような

満ちています。私たちも、そのように聖霊の火を周囲の人にもたらしましょう。ありがたいことに、オリンピックの聖火やバトンと違って、この炎は私たちの内に永遠に留まりつつ他の人々へ広がります。復活徹夜祭で広がるあの光のように。

形で聖霊の助けを願ひ、また聖霊の息吹を受けて生きていくべきかを考える機会にしていただければと思います」と切り出され、4月に日本の司教団のアド・リミナでローマを訪問して感じたこと、さらに来年の聖年に向かう教会の歩みについて、分かち合ってくださいました。以下、要旨です。

「8日〜11日、ほぼ全員の司教でほぼ全部の関係省庁を午前も午後も回り、日本からの報告をして向こうからの話を聞くという対話が続いた。12日の朝に聖ペトロ大聖堂の地下、聖ペトロの墓の一番近い所でミサを献げ、その後、教皇様と謁見した。

教皇様は足があまり良くないながらもお元気で、日本の司教たちが謁見の間に入る時には立って一人一人に握手してください。

緊張する私たちに教皇様は開口一番、『皆さん、この裏にトイレもあるし、そこに水が置いてあるので、必要な方は遠慮なく』と言われ、思わずみんな肩の力が抜けた。小1時間、比較的ゆったりとした感じで教皇様は私たちの話を聞き、私たちもざくばらんに質問や報告をし、教皇様もそれに応え、いろんな話をしてください。まさにそこにシノダリティ、私たちの教会全体が大事にしようとしている、共に歩む、互いに耳を傾ける、お互いの話の中で聖霊がどのように働いているのかをしっかりと聞き取る『共同識別』が感じられた。教皇様の最後の一言は、折に触れて話されている、『喜びを失わないように』だった。だから、私たち自身も聖霊のみがもたらしてください。内的な喜びと平和を大切にしながら、それぞれの立場でこれか

らも私たちに聖霊を注いでくれる教会、今秋のシノドス第2会期に向かって進んでいる教会と共に歩みましょう。

また、二〇二五聖年について様々なメッセージが発信された。今回のテーマは、『希望の巡礼者』。昨日14日、バチカンから全免償の規範が発表された。伝統的な聖地巡礼や各教区の指定場所で献げる祈りに加え、慈しみと奉仕の行い、そして今回おそらく史上初めて、自分の娯楽や自由時間の中でデジタルから一時期離脱して節制して神様に献げる、と具体的に触れられている。教会は今の時代に合った形での祈りや犠牲、節制を私たちに合わせて勧めてくれる。聖霊が教会を『今日化・強化』しておられる。それが聖霊のすばらしいところ。」

最後に、「皆さんも、聖霊による刷新において日々新たにされ、共にそれを分かち合い、他の人に働く聖霊を共に賛美して豊かな恵みを受け、それを伝える人になるように励んでください。」

い。私たち一人ひとりに聖霊が豊かに降るように祈ります。また全国大会などで皆さんとお会いできるのを楽しみにしています」と結ばれ、司教の祝福をくださいました。

◆次に、北海道チームの賛美、一気に南下して沖繩からマイケル・ヴィン神父様の講話、いったん本州中央に戻って名古屋チームの賛美、最後に九州に南下して鹿児島チームの賛美、と続きました。各チームがテーマに合わせて特色ある賛美でリードしてくれました。

マイケル神父様もお忙しい中、録画を送ってくださいました。最初にギターを弾きながら「聖霊、心に」を歌い、ご自身と聖霊様との親しい交わりがあつてこそ喜びが滲み出る教えと証しでした(4〜5頁参照)。

旭川と札幌の北海道チームは、「賛美のいけにえを主の前に」をテーマに、見事な連携プレーで歌集『主に賛美』からおなじみの歌の数々で元氣よく賛美しました。名古屋チームは、リー

ダーの秋元伸介さん作詞作曲の歌を含めた賛美を通して、聖霊の満たしと聖霊の賜物を求める祈りに導かれました。そして、鹿児島チームは、末吉卓也神父様が主任司祭を務める始良教会聖堂で、「主よ、私たちを遣わしてください」をテーマにご聖

体を礼拝しながら9曲中7曲が鹿児島チームメンバーによるオリジナル曲で賛美し、ご聖体による派遣の祝福をいただきました。名古屋チームが「主の霊が私の上にある」を歌い、午後4時ちょうどに終了しました。

◆後日、二人の参加者がこの集いの中で受けた言葉やビジョンを分かち合ってくださいました。Aさん。詩編96・1〜10と三つのビジョン。①参加者各自の肩に白い鳩がのついていた、②小さな芽が出ていた、③海原が夕陽に照らされキラキラ光っていた。

Bさん。「『預言を与えるから賛美の集いに参加しなさい』と示され、参加した。いただいた言葉は、『聖霊の導きに従っているなら前進している。あなた

に与えられた平和の霊により、近い内にあなたの求めていたものを与える。平和の霊の内にある必要な賜物があなたの前続けましょう。

聖霊様は、こんな方

那覇教区名護教会主任司祭 マイケル・ヴィン神父

私の経験、信仰と復活の喜び、そして聖霊の働きについて皆さんと分かち合う機会をいただき、感謝いたします。私たちは、洗礼を受けた時に聖霊に満たされました。では、聖霊に導かれて信仰生活を元気に喜んで生きていくでしょうか。

『ヨハネによる福音書』16章12〜14節に耳を傾けましょう。「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたのために理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしの

に備えられる。それはあなたの前に流れ広がるだろう。』さあ、聖霊と共に希望の巡礼を続けましょう。

ものを受けて、あなたがたに告げるからである。」

イエス様は使徒たちと約3年一緒に行動し、あちらこちらで神様の国について伝えました。最後の晩餐で、使徒たちと別れる前に、この言葉を話されました。聖霊、真理の霊、神の霊、イエス様の霊、弁護者である聖霊、助け主の霊、という言葉で私たちが聞いています。でも、聖霊様とはどんな方でしょうか。三位一体である神様の内に、イエス様のおかげで天のお父さんである神様と聖霊様のことが少し分かります。『ヨハネによる福音書』で誰かを「知る」ことは、頭よりもっと深いレベル、心で知ることです。頭で知るには、勉強や研究をして知識を得ます。心で知るには、愛する、

大事にする、優先します。私たち人間は何かや誰かを愛すると、相手の存在を繰り返し頭と心に留め、大事にして、繰り返し語ります。子供が親の愛情を毎日受け取っていれば、どこに行っても自分のお母さんお父さんについて繰り返し語れます。私たちが、「神様を知っている」と言ったら、神様を大事にして、神様のことを優先します。では、イエス様が教える聖霊様はどんな方か。

その方は、「真理の霊」です。「真理」とは何か。ある人々には、この地上に絶対の真理などありません。しかし私たちに、この真理である神様にいただいた命は真理です。私たちの信仰、私たちの三位一体の神様を信じることは、真理です。私たちの教会が教える倫理は、真理です。聖霊様は、最高の真理の霊です。この方は、何をなされるのか。「あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」。聖霊は、神様について、信仰について、倫理について教え、私たちが悟

らせません。この方は、「自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げ」ます。聖霊様は自分について語りません。別のこと、新しいことを教えません。イエス様と神様のことについて私たちに語り、私たちを教え、導きます。イエス様が言われるとおり、聖霊様のおかげで、私たち一人一人は違いますが一つになります。共同体の中でタレントやカリスマを持つている人がいても分裂を引き起こすのなら、それは聖霊様による働きではありません。これは人間の霊のせいです。聖霊様の働きは、別々のことを一つにまとめ、異なる人々の心一つにします。

私自身の経験です。子供の頃、聖書と同じ箇所を何回読んでも理解できませんでした。どうしてイエス様はこう言ったのか、と。たとえば、「敵を愛しなさい」。敵を愛しなさい？ 私の敵とは誰？ 戦争の敵ならベトナム人にとってはアメリカ、後は

フランス人とか、中国人とか。その人たちを嫌いだから愛することは絶対にできないよ、と。もちろん、教会でミサの説教を聞き、カテキズムのクラスでも勉強しましたが、それでも理解できませんでした。大人になっても自分で聖書を繰り返し読み、黙想もしました。ある日、体験によって「敵を愛しなさい」という意味が分かりました。聖書の「敵」には広い意味で性に合わない人、好きではない人も含まれます。私は外国の神学校に入ったので、いろいろ壁がありました。ある神学生は、いつも私と討論しようとし、厳しい言葉で私を侮辱しました。でも、彼を嫌いかどうかは別として、私は討論には応じず冷静に話しました。私は教区の神学生、彼は修道会志願者だったので、その後しばらく会いませんでした。ある日、彼は神学校で教えている神父様と話す機会があり、その先生は私について彼と話した。同じ日に彼は私に会い来て、最初の言葉は、「ごめんなさい」

でした。私はびっくりした。「え、何をごめんなさい？」彼は答えました。「あの時、私はあなたに悪い言葉を使いました。いろいろなことを呪いました。ごめんなさいね」。「あ、そういうことです。心配しないで、私はあの時あなたを赦しましたよ」と私は言いました。赦した当時は、彼がその赦しを悟るかどうか分かりませんでした。でも3年後に「ごめんなさい」と聞いて、心の癒しと赦しを悟りました。その時、子供の頃から読んでいた「敵を愛しなさい」の意味が分かりました。聖霊様のおかげです。

『カトリック教会のカテキズム』688は聖霊様の豊かな働きをこう教えています。「伝えられた使徒たちの信仰の交わりを生きたる教会を通して、わたしたちは聖霊を知ることができません。すなわち、―聖霊の靈感によって書かれた聖書、―教会の神父たちがつねにあかししている聖伝、―聖霊に支えられている教会の教導権、―聖霊がことごとしるしとによってわたしたちをキリストに交わらせる、秘跡の典礼、―聖霊が私たちのために執り成してくださる祈り、―教会を築くカリスマと種々の奉仕、―使徒的、宣教的生活のさまざまなしるし、―聖霊がご自分の聖性を現し、救いのわざを続けられる聖人たちのあかしを通して。」

聖霊様は、イエス様の言葉、聖書の言葉を悟らせてくださいます。毎日の信仰生活でどの分野においても聖霊様の導きと働きを悟るといふ恵みは大事です。私たちが人間は弱いので、ほとんど肉眼でしか見ていません。毎日信仰の目で見て生きているか、自問する必要があります。日々聖霊様の働きを悟るなら、呼吸のように聖霊様は自分の一部であり、一緒におられることが分かります。聖霊様は私たちの外のものではない。私たちと一緒に生きて生活しておられます。たとえば、どんなきれいな言葉で祈っても、聖霊様の助けと導きがなければ、私たちの祈りはうわべだけになります。私たちはどのように祈っていいか分かりません。聖霊様が私たちに祈りを教えて導いてくださることを悟って、神様をよくご存知の聖霊様と一緒に祈れば、それが本当の祈りです。祈りは信仰生活とつながっています。祈りと信仰生活は別々、それはあり得ない。祈りによって信仰生活が強められ、信仰が強まると祈りをもっと深まります。これは聖霊様の働きです。私たちはオーケストラの楽団員のように。指揮者イエス様の指導を私たちが理解できるのは、楽譜や歌の核心を実感して理解できるのは、聖霊様のおかげです。皆さんも生活の中で聖霊様の働きを悟った経験があるでしょう。これからも聖霊様の働きと導きを悟り、そして素直に従えるように祈りましょう。「聖霊様、私たちの心を開き、私たちの頭を開き、私たちの目を開き、あなたの働きと導きを悟ることができるよう導いてください。あなたに感謝と賛美を献げます。アーメン。」

2024年フレンツ神父の軽井沢での黙想会

ドイツ在住 マリアヨゼフィーネ和歌子ゲスマン

フレンツ神父が日本を訪れたのは

今回で二回目です。二〇一九年の初めての来日の際に同師の黙想会を体験された方は、彼の変わりように驚かれたことと思います。実際、「フレンツ神父様って愛に溢れた素晴らしい司祭だとは思っていたけど、あまりに変わったのでびっくりした」と、複数の方から言われました。もちろん、良い意味での変化に驚いての反応です。

神父様の正式名は『フランシス』、名前の聖人はフランシスコ・ザビエルです。そのせいかどうかわかりませんが、フレンツ神父の日本への愛はとても大きくて、最初の日本訪問から帰国してすぐに、翌年の二度目の来日を予定して航空券を購入しました。残念ながら、それはコロナウィルスの蔓延によって実現しませんでした。が、「日本への思いは募るばかり」という様

子が見て取れました。

コロナによる影響で皆様も大変な思いをされたことと思いますが、二〇二〇年からの四年間は、フレンツ神父にとっても試練の年月となりました。試練とは、私たちが霊において成長させるために神がお許しになった恵みの時であることは、皆さんご存知の通りです。私も知っているつもりではありますが、自分に試練が降りかかると、御旨を受け入れて歩み続けることは容易なことではないというのが実感です。

フレンツ神父は癌の治療をしていましたが、それによる副作用で体調が悪くなり精神的にも影響を受けました。また、彼の司牧の場でも辛い出来事が続きました。スズメチームやドイツの祈りのグループが祈りでサポートしていたのは、もちろんのことです。その間もフレンツ神

父は YouTube に毎日の考察

をアップロードし続け、ドイツをはじめヨーロッパの他の国でも黙想会を指導しつつ、12週間のイグナチオの霊操を何度も何度も繰り返し、イエズスとの対話を深めていきました。

そして今では、イエス様は以前より明瞭にフレンツ神父に語り、それが神からであるというはつきりとした証拠も与えてくださるようになったのです。

例えば、日本に到着してすぐのことですが、「ドイツを出発するときに見えたんだ」と言っていました。こんなことを話してくださいました。「水平線のようなものが見えたんだ。だけど水平線よりも境目がくつきりしていて、境目は本当に横にまっすぐなんだ。その向こうからいつぱい手が上っているんだ」とのこと。「煉獄の霊魂？」と聞くと、「いや、違う。何だろうなあ」と

言っていました。それが、軽井沢でご聖体礼拝をしている時、「この光景だ！」と気づいたのだそうです。(次頁の写真参照)

イエス様はあらかじめこの光景をフレンツ神父にお見せになっていたのです。この黙想会が御旨にかなっている証拠のように私には思えます。

◆もう一つの例は、もつと驚くべきものです。これも日本に発つ直前のことですが、フレンツ神父はシウトットガルトの或る教会でごミサを捧げていました。アニユスデイを歌っている時、彼は突然五つの弾丸のヴィジョンを見たのです。ミサ中にこんな物騒な物が見える事に戸惑っていました。が、派遣の祝福の前に、フレンツ神父は見たものを人々に伝えました。すると次の言葉が浮かんだので言い添えることになりました。「神はある人物を、憎しみ・怒り・憤怒・苦しみ・失望から解放しようとしてきています」。その後彼は、聖マルティンの聖遺物で一人一人を祝福し、按手の祈りをしたの



ですが、最後に並んだ男性を祝福した時、その人はフレンツ神父を突いて注意を引き、握っていた手を開いたのです。そこには五つの弾丸がありました。驚いた神父が弾丸を渡すように頼むと、男性は素直に従いました。ミサが終わるとその男性が香部屋のフレンツ神父を訪ねたので、「憎しみ・怒り・憤怒・苦しみ・失望という言葉が浮かんだのですよ」と繰り返して告げました。その途端、男性はその場

に崩れるように跪き、号泣しました。神は全てをご存知であることを、フレンツ神父を通して、その男性に示されたのです。男性の話によると、彼の父親が亡くなり、家を整理してこの弾丸を見つけ、それ以来いつも車の中に置いてあったとのこと。派遣の祝福の際に弾丸のヴィジョンを聞いて、驚いて車に取りに行ったのだと彼は説明しました。フレンツ神父はその男性のために解放の祈りをし、弾丸を祝別して大きな川に捨てたそうです。

時は、そのごミサが捧げられる数時間前に戻ります。彼はご聖体の前に座り、イエスと会話していました。イエスはフレンツ神父にこう言われました。「あなたが説教で話すことはすべて、私の血により署名されている。」この言葉の持つ大きさに驚きつつも、神父は尋ねずにはいられなくなりました。「イエス様、私が見るヴィジョンや知識の言葉はどうなんでしょう。常にフィードバックがあるわけ

ではないので、あなたからのものかどうか確認が得られません。」「充分確証は得ているだろうに・・・わかった。はっきりとした証拠を与えよう。」

そして五つの弾丸の出来事を体験することになるのですが、夜、独りになって落ち着いた時、このことがイエスが言われた『はっきりとした証拠』であることに、フレンツ神父ははたと気づくのです。このようにフレンツ神父が以前よりもずっとイエスと近しくなったことが、彼が『変わった』秘密だと私は思います。

◆この度の軽井沢での黙想会で、とても嬉しいことがありました。若い司祭が参加してくださったのです。その司祭が素晴らしい証しをしてくださいましたので、ご紹介します。

「フレンツ神父を通して働かれるイエスの業を目の当たりにして、人はここまで神と親しくなれるのかと、司祭職の高みを見せていただいた気がします。

ミサの時、パンがご聖体に変わることは良く理解しているつもりでした。しかし、司祭がキリストになることをこんなにもはっきりと感じたことはありませんでした。しかもそれは、イエスがフレンツ神父に取って代わるのではなく、フレンツ神父がそのままイエスなのです。愛における一致は、互いを尊重します。イエスとフレンツ神父が、互いに譲り合う一致とでも言うのでしょうか。これ以上相応しい表現が思い浮かびませんが、これが自分にも求められている生き方であることが、はっきりと分かりました。人生を変える恵みの時でした。」

この若い司祭が、たった四日の間にどのように変えられたか、参加した皆さんと共に私も目の当たりにしました。この方のため、そして全ての司祭、キリストの代理者のために祈りを増していこうと思わずにいられません。

◆最後に、私自身のことを少し書かせてください。フレンツ神

父に負けず、私にとっても過去4～5年間は、家族のこと、体のこと、そして霊的なことにおいて試練の年月でした。さまざま祈りや巡礼をし、イエス様は私に何をお望みなのか尋ね続け、最後にイグナチオの黙想を半年間行いました。そして、「今回の黙想会をもって私が企画する黙想会は最後にしよう」という結論に達したのです。

体調不良が続いたため、今年の黙想会には、初めて通訳と賛美を他の方にお願いしました。通訳を快く引き受けてくださった佐倉泉さんと小熊晴代さん、本当に有難うございました。

こうして、いざれフェイドアウトするつもりでしたが、軽井沢で司祭を通してイエス様からたくさんの祝福をいただき、幾度も聖霊の安息のお恵みをいただいたとき、イエス様が「これは終わりではない。始まりだ」とおっしゃったのです。

軽井沢の黙想会には、ミオの黙想会に参加したことのある一人の女性が来ていました。ミオ

の黙想会に来た時、杖をついて歩いていましたが、今回は元気がそうでした。この人はミオにいただいたメッセージを忠実に守り、祈りの生活を送ってきたのです。その結果、体は癒され、ミオがメッセージで彼女に伝えたくさんの霊的賜物を受け取りました。この方の存在は、今回の軽井沢でもとても大きかったと思います。この方の振る舞いを見て、私は、イエスに信頼して忠実に祈り続けることの大切さを改めて学びました。

イエス様がおっしゃった「これは終わりではない。始まりだ」という言葉がこの女性と関係しているかどうか、今の私には分かりません。今までの奉仕の仕方ではなく、「違う役目が与えられるのかも」とも考えますが、それも今は分かりません。時が来て聖霊に教えていただけるまで、祈りつつ待つことにします。フレンツ神父は私の指導司祭でもありますが、彼は私が黙想会を企画するのをやめることに賛成です。「しかし、招待さ

れた場合には動くように」とのことです。嬉しいことに二〇二五年に二つのグループから招待を受けました。フレンツ神父の来日は、今年同様、五月の連休明けを考えています。一つのグループは軽井沢で、もう一つのグループは東京近辺で考慮中です。他の地域でも招待・企画を検討される方は、どうぞゲスマン(wako.gessmann@gmx.de)までご連絡ください。必要な時はスズメチームがサポートします。

世界的に不穏な空気が漂っていますが、御旨ならば来年の黙想会が実現しますように祈りつつ、今年の黙想会の証しとさせていただけます。

私たちの神、御父と御子と聖霊に賛美と感謝と栄光！ 私たちの御母マリアの忍耐と執り成しに感謝！

《黙想会参加者の証しから》
「あなたを新たに創る」

カトリック瀬戸教会
攪上 宏

フレンツ神父の黙想会に参加しました。祈ってくれていた友

人へ帰宅後に送った言葉から、この分かち合いを始めたと思えます。「喜びいっぱいに戻って来ました。聖霊の点滴を受けて来たみたい！」

愛知県から軽井沢に向かう電車の中で、心の中に、前の晩に歌った賛美の歌詞が繰り返し出てくる。「あなたの霊によって宮は建て直される」。私は建て直されるのだろうか？ そんなことを思いながら、電車に運ばれて行った。会場に着いた晩のミサで、最初に感じたのは、みんなの歌う声がとても心地よいということ。これだけで、ますます皆が近しく感じられ、心地よいスタートとなった。

黙想会中、最初に神様から言われたのは、「あなたを新たに創る」ということ。この言葉を、期間中、度々言われ続けた。そして、部屋に戻り静かにして、沈黙の中で聖書のみ言葉をもらう度に、迫られていると感じる一つのことがあった。「あることだわりを手離すこと」。これはずっと続いて、続いて。でも、

私は神様に対して適当な「はい」は言いたくなくて、正直に自分を見つめることを、ただただ続けていた。3日目に神父さんが、正にそのことについて講話の中で話し始めた時、私は「ああ。そうなのですね」と神様に話しかけ、ずっと手離さなかつたこだわりを、素直に手離す決意ができた。これを手離すために、ここに來たみたい、そう感じる大きな出来事だった。そして、自分をつないでいた鎖がほじめて、自由になれる感覚が生まれた。

この出来事と関わりがあると、思えることがあった。いままで、神様から度々、「あなたは私のもの」と、伝えてもらってきいてきた。神様からの愛を実感でき、大切な言葉。今回、黙想会中に響いてきたのは、「あなたは、永遠に私のもの」という言葉。『永遠』というひと言が加わっただけ。でも、何かが大きく変わったことを感じた。もうひとつの分かち合いを。教会では、主は人類の救いのた

め十字架にかかられた、と言われる。私にとって神様は、「とにかく愛してくれて、愛を伝えてくれる神様」。一方、これまで、十字架については身に染みる程の実感はなかった。しかし、この黙想会中に、「自分が十字架にかかっている」鮮明なイメージを受けた。これが私の本当の姿。神様がいない時の自分の姿。生々しく、みじめな、締め付けられるような、知っているけど忘れていた自分の姿。拘束され、自由のない、そこには居たくない、でもそれがいつまでも続く、そんな感覚。

その後、また我に返り、今のこの会場での自分の姿を見た。自由に動けて、喜んで歌い、笑い、祈る自分。自分の外側から自分を見ている感覚。この時見た自分の姿から、イエスの十字架がもたらしたものが、はっきりとわかった。ふと見上げると、イエスが十字架にかかっていた。木彫りの像から、生(せい)を感じた。「いま」そこにイエスがかかっ

ているから、私はここに立って、自由にしている。永遠に縛り付けられていた私に代わって、イエスがかかっている。そんな生の感覚がどんどん入ってきて、十字架というものを初めて見た、という感覚にもなった。いままで見てきた十字架とは別で、生きていた生身のイエスがそこにいる。以前と同じようには十字架を見られない。そこに、イエスがいるから。以前は、十字架は見えるままの十字架だった。いま、十字架の部分は意識に入らなくなり、私の代わりにイエスがいる所、になった。この体験は、決して忘れ得ない、刻まれた体験のひとつとして今日も続いている。

黙想会を終えて過ごす日々、私は確かに「新たに創られた」という感覚の中にある。喜びと共に「古いものが過ぎ去り、新しいものが生じ」ている。言葉をつくしてもうまく表現しきれないのですが、この思いを、体験を、ただありのまま分かち合いたいと思いました。

軽井沢での黙想会に参加して

所沢教会 高浜武則

不思議なことが続いた黙想会でした。仕事の関係で参加できないかもしれないと思っていた黙想会に、結果的に何の支障もなく参加できたこと、黙想会開始のちょうど一月前にある教会で一瞬出会ったけれども司教区が異なるので二度と会うことはないだろうなあ、と思っていた方が通訳をされたこと、その通訳の方は聖霊刷新の集いに参加したことがなかったのに日々霊的に成長し、早くも三日目には異言の賜物を受けたこと、黙想会の途中でもう帰りたいと言っていたご婦人がフレンツ神父に祈っていただき、最後まで参加して喜びの内に帰ったこと、若い頃から神経痛で苦しんでいたご婦人が癒やされたこと、夜中の三時の聖体礼拝中にこれからの使命を指し示すと思われる御言葉をいただいたこと、さらに夜中の四時頃、それを確認する御言葉をいただいたこと、黙想会終了後に自宅に戻り、最初に

音声で聞いた御言葉がそれと全く同じであったこと、最後の晩のセッション中、フレンツ神父様がそばを通り過ぎながら「神はあなたをとて愛しておられます」と私に言ってくれましたことなどなど。

聖霊刷新の大会や研修会に海外から来てくださる講師の方の本を翻訳して大会等で販売することが従来の私にとつての福音宣教の方法でしたが、コロナ禍でそれが行き詰まり、この方法からの脱却が必要となっていました。それと同時に、そろそろ潮時かなと思いついていたところでした。それに、去年、癌で

苦しんでいた友人のために多くの方々に祈っていただいただけでなく、私も毎日彼のために祈り、さらに自宅を訪れ、肩に按摩し、異言で祈り、癌細胞に出て行けと命じたにもかかわらず、間もなくその友人が亡くなったことから癒しの祈りには非常に消極的になっていました。

これを自分の人生における最後の黙想会にしようかとも思っていたのですが、今回の黙想会に参加して、新たな使命をいただき、聖霊に満たされて再び力を得ることができました。神に賛美と感謝。

初台での一日黙想会

苦小牧教会 マリア・エリザベット 小橋美智子

六月一日、東京の初台教会に於いて、フレンツ神父さまの一日黙想会が行われました。私はスズメ賛美チームの一人として参加していました。私にとつても初めての一日黙想会。それまでの

軽井沢での数日とまた違った空気のなか、初台の奉仕の皆さんによって並べられたたくさん椅子は、どんどん埋まってきました。

この日の、私の目の中にある

ものをお伝えしようと思います。

賛美が始まりました。私の想像では、喜びの中の賛美でしたが、実際は違うことに少し驚きました。辛そうな顔、苦しそうな表情、硬く縮こまった肩、歌集だけに目を張り付けている方々が気になりました。新しい歌集を使っていたので、それはそうなのですけれど、まるで隣の方とも触れたくない、関わり合いになりたくないかのような印象を受けたのです。

フレンツ神父さまの講話はとても楽しいのです。胃が痛くなるようなお話ではありません。時々、ルクセンブルクの農夫が登場します。彼らは、ズボンのポケットに手をつまみ、肩を怒らせて強がるのだそうです。その様子を笑演なさいます。思わずみんなが笑顔になります。「涙なんて見せない」「それは恰好悪いこと」「そんな弱い男ではないのさ」と。ですが、それは意味のないこと。私たちがルクセンブルクの農夫にならないことを勧めてくださいます。私

たちが泣くことも、涙の賜物であり、神様からのプレゼント。異言で祈ることは、素晴らしいこと。自分の為の賜物です。

そして、異言の賜物をいただけるようにと、『クラッシュ・コース』が始まりました。異言の賜物を望む方々が進んで前に出て、個人指導の短期集中コースです。神父さまの異言の真似をして、自分でその異言を祈り続けます。神父様は、ひとりひとりに寄り添って通路を歩き、一緒に祈り、異言で話してくださいました。まるで昔からの友達のように、肩を抱き、語りません。異言ですから国の壁はありません。たくさんの笑い声の中、硬く縮こまった肩も顔もほどけ、力が抜けていく様子がよくわかりました。神父様の覚えたての日本語、「オバーサン」の連発には、ついつい苦笑いです。また、辛い状況にある方の為にも祈ってくださいました。呼びかけられてすぐに前に出てこられた方々と、抱きしめ、祈られるフレンツ神父様の祈りの時



ご聖体をかかげて

を見ながら、神様の前では遠慮は損だと改めて思いました。

二〇一九年、初めて神父さまにお会いした時には、『愛が走ってきた、愛が飛び込んできた』と感じましたが、今回は『大きな愛で包んでくださる御父の愛』がフレンツ神父さまだと思います。

すべては『愛』の中で行われたのです。とがめられることのない愛、赦してくださいさる愛、抱きしめ、あやしてくださいさる御父の愛。だらしのない自分も、心を刺す痛みも、どうしようもない状況も、全部ご存知で、慰め覆ってくださいさる御父の愛。言葉で聞いたことはあるけれど、頭



奉仕チームの賛美

の理解ではなく、心で、霊で感じました。愛されることに慣れていない、経験の少ない私たちが日本人ですが、体中の力を抜いて、大切にされ、受け入れられるという体験の連続でした。

それは、ご聖体による祝福で、皆さん一人ひとりが体験なさったことでしょう。

フレンツ神父様は、ご聖体顕示台を手にして一人ひとりを祝福し、祈ってくださいました。ご聖体を見つめる方、イエズスと会話をなさっている方もいらっしやいます。こらえきれずに泣き出す方もたくさんいました。ご聖体のイエズスの愛と迫力を感じます。聖霊の安息に入り、



ご聖体による祝福

多くの方が倒れ、涙し、喜び、回復なさいました。愛されることの幸せと安心が会場に広がっていききました。起き上がり、お席に戻られるときの輝くような表情は、心に詰まっていた心配事から解き放たれたかのようなです。

最後の賛美のときには、波が押し寄せるように皆さんが立ち上がり、手をあげて賛美する方々が広がりました。それでもどうしてよいのかわからずに椅子に座られた方々をお誘いすると、喜んで立ち上がり、手をあげ、隣の方と手を取り合つて賛美に加わりました。もう歌集も、何も無くても大丈夫です。感謝

の賛美が、涙なのか歌なのか叫びなのか、わからない状況になっていたのです。

実は、どのようにこの黙想会が終了したのか、記憶がないのですが、後で、「声をかけてくださってありがとう」と言ってくださった方がいらっしやいました。また、おひとりで参加された男性の方からは、「恥ずかし

ながら、歌も歌えなくなるほど涙が止まりませんでした。異言で祈ることも恥ずかしいことではないとわかりました。隣の方とLINEの交換もしましたよ」ということをお聞きしました。

お忙しい中、駆け付けてくださったパウロ神父様、通訳をしてくださった小熊さん、準備と片づけで大変でしたでしょうか初台教会の皆様、ありがとうございました。

来年もフレンツ神父様が来られる予定があると聞いています。私は個人的な事情で、今回はぎりぎりの参加でした。来年はどうなるでしょうか。どうか、主よ、次回も呼んでください！

祈りの集い研修会開催のお知らせ

コロナ禍で数年間、各地で祈りの集いが中止になりました。改めて祈りの集いの基本に戻り、新たな力を得る機会を提供いたします。

- テーマ：祈りの集いリニューアル！ 力と愛と思慮の霊によって
主 催：カトリック聖霊による刷新全国コムニオ奉仕会
日 時：8月23日（金）11時～18時（受付開始は10時半）
24日（土）10時～17時半（受付開始は9時半）
内 容：賛美、五つのセッション（講話）、祈りの集い、ミサ、聖霊による洗礼、茶話会など
講 師：畠基幸神父、秋元伸介、小熊晴代、中村友太郎
場 所：秋葉原ハンドレッド7
（東京都台東区浅草橋5-3-2 秋葉原スクエアビル7階）
* JR浅草橋駅および秋葉原駅から徒歩10分程度
（カトリック浅草教会の南西）
参加費：一日二千元（一日だけの参加も可能）当日現地払い。
詳 細：カトリック聖霊による刷新公式サイトニュース
（<https://ccrjapan.org>）
定 員：80名
申込み：メールで charispress3@gmail.com（高浜）まで
* 氏名、祈りの集い名、参加日（一日だけ参加の場合のみ）
代表者が複数人分をまとめて申し込んでも結構です。
昼 食：各自でご用意ください。会場内での飲食可能。
会場の近くにレストラン等あり。
- * 歌集『主に賛美』、『カリスマを通して福音を伝える～聖霊の賜物を受けて活かす手引きと実例』
（ベンジャミン・ゴンザガ著 吉田顕朋訳・監修：小熊晴代）、『笑うイエス』（フィオ神父著、
高浜武則訳）等を販売します。

関西地区・合同祈りの集いのお知らせ

「霊に満たされ、詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい。」
（エフェソの信徒への手紙5・18-19）

コロナ禍で4年間、祈りの集いができませんでした。共に集い、心をつなげて新しい歌で、
新しい心で主を賛美し、聖霊に満たされましょう。
皆さんの参加をお待ちしております。

- 主 催 カトリック聖霊による刷新 関西合同祈りの集い実行委員会
協 賛 カトリック聖霊による刷新 全国コムニオ奉仕会
日 時 9/21(土)13時(受付含む)～16時
会 場 カトリック大阪梅田教会 サクラファミリア
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-12-8

- ① 申し込みは不要です。どなたでも参加できます。
- ② 参加費500円+自由献金をお願いします。
- ③ 大阪梅田教会には問い合せしないでください。
- ④ 問合せ先：nznccrp@gmail.com 秋元
- ⑤ 来場の際は公共の交通機関をご利用ください。

* 「カトリック聖霊による刷新全国コムニオ奉仕会」(<https://ccrjapan.org/>) は、バチカンの
いのち・信徒・家庭省管轄下にある CHARIS「カトリックカリスマ刷新国際奉仕会」([https://
www.charis.international/en/](https://www.charis.international/en/)) の日本での代表団体です。